

平成23年度 科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング
24011 リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保する
システムの整備（文部科学省）

- 1 日時：平成22年9月7日（火） 13:00～13:30
- 2 場所：内閣府（合同庁舎4号館）1202共用会議室
- 3 聴取者：総合科学技術会議有識者議員 相澤議員、本庶議員、奥村議員、
今栄議員
外部専門家 5名（うち若手 2名）
内閣府 岩瀬審議官、有松参事官
- 4 説明者：研究振興局 池田研究環境・産業連携課長

5 施策概要

リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保する全国的なシステムを整備するとともに、大学等において研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等を総合的にマネジメントできるリサーチ・アドミニストレーターを育成・確保し、研究者が研究活動に専念できる環境の実現を図る。

6 質疑応答模様

- （相澤議員）学内で専任ポストを措置するという事は、どういう位置付けにするのか、キャリアパスも不確定に見えるが、それぞれ大学が工夫をして行なうのか。それとも文部科学省がポストを措置することを含めているのか。
- （文部科学省）基本的には公募する際の条件として、将来的に学内でポストを措置することを要件の一つとして考えています。
- （相澤議員）今までの教員系と事務系に大きく2つに分かれているところに、第3のポストを位置付けるという姿勢があるのか。
- （文部科学省）高等教育局とも調整しています。京都大学では、知財の人材のようだが事務職員でもなく教育職員でもない第3の位置づけという形で置くという試みも始まっています。これまでの研究支援人材はやや処遇があまり良くなかった状況もあったが、まだ方向は見えていないがきちっと位置付ける形にしないとキャリアパスが定着しないと思われしますので、問題意識は持っています。
- （相澤議員）学内措置だけでは片づかないと思いますので、公募するに当たって大学が専任ポストを措置するかどうかというところを吟味して欲しい。これは人事の体制の問題なので、文部科学省としてきちっとした方向性を示すべきではないか思います。

- (文部科学省) 資料にある「雇用後のキャリアパスについて、明確なプランが設計されている」とあるように、人事制度を含めて公募要件に明示させて頂き、また「どのような職務に参画させるか」についても公募条件にしたいと考えています。
- (相澤議員) それは大学の対応なので、文部科学省としてしっかり対応しないと駄目ということです。
- (外部専門家) 公募は、リサーチアドミニストレーターを育てる教育プログラムを作る大学を募集するのか、それともアドミニストレーターを入れる大学を募集するのか。
- (文部科学省) 平行して進めることになります。
- (外部専門家) 教育プログラムでどのようなことをするのか。具体的なものは今後考えるのか。
- (文部科学省) 日本ではリサーチアドミニストレーターのシステムが一般的ではないので、スキルとして何が必要なのかというところから議論していただくことになります。
- (外部専門家) 外国では、スポンサーファンデーションみたいなところが必ず大学にあって、1人が3つ若しくは1つの分野を担当するが、それほど高いスキルが必要だとは私は思っていないのですが、本施策はキャリア的なものまで含めて考えているのか。
- (文部科学省) 競争的資金の申請手続きだけを行なうのではなくて、いろんな情報を集めて外部から資金を確保するためにはどうするか等の仕事を想定しています。
- (外部専門家) リサーチアドミニストレーターは、本来の外部資金を担当していた人以上を期待するということが。
- (文部科学省) 一般とシニアのアドミニストレーターを想定していて、申し上げたのはシニアを想定しています。
- (外部専門家) 一般はシニアの下で学びながら将来はシニアになるのか。
- (文部科学省) はい。単に事務職員であれば研究者の支援をしてフォローをすれば良いと思われるが、もう少し研究者と対等の立場でアドバイスもしながら研究資金を取るイメージです。
- (外部専門家) 外国はこの人たちは間接経費だが、そういう発想はないか。
- (文部科学省) これは、5年に限り制度を定着させるものであり、間接経費なのか、それとも大学全体で位置付けていくのかということになると思います。
- (外部専門家) 公募する大学はそこもプランに入れておくことが必要なのか。
- (文部科学省) そこまでイメージしたところに配置したいと考えています。
- (外部専門家) この人たちをどのような基準で選ぶのか難しいと思われます。

- (文部科学省) 将来に向けての位置付けが重要であるので、そのようなところを選定したいと思っています。
- (本庶議員) 「比較的大型の共同研究を獲得するポテンシャルを持つ100機関に320人」とは国立大学は全部なのか。
- (文部科学省) 国公私を通じて一定の規模の共同研究を行なっている大学をイメージしています。
- (本庶議員) それから、人件費は100人でいくらか。
- (文部科学省) シニアが約900万円、一般が600万円を計上しています。それと旅費とかも計上しています。
- (奥村議員) リサーチアドミニストレーターは事務職員と何が違うのか。
- (文部科学省) 将来的なキャリアパスも含めて、単なる支援ではなくて研究者とパートナーのような形で、知財とか資金調達の知識を持った方が議論を重ねて外部資金を獲得して頂く人を想定しています。
- (奥村議員) この方の職責は、何を持って評価される職位なのか。
- (文部科学省) 基本的には、外部資金導入の実績が中心になると思います。
- (奥村議員) 外部資金の獲得をこの職位の業績評価にすることであればレベルが高いと思うが、資料では事務職員と同じにしか読めない。中途半端な職位を作ると本人が困る。言い過ぎかもしれないが、ポストクの適応策の一つではないかと見られてもしょうがない。
- (文部科学省) 基本的には、アドミニストレーターを置くことによって単に研究者が教育活動に専念するというのではなく、大学にとっても競争的資金を出す政府や独立行政法人にとってもメリットがあると資料で説明しています。特に大学にとっては、単なる教員の支援だけではなくて研究支援全体のマネジメントなども任せることになります。
- (奥村議員) 例えば指導の教授とPIとどのような関係になるのか。
- (文部科学省) 基本的に今までは、研究者の方が居て研究者の手伝いをする、事務職員が研究の中身までどこまで知っているか解りませんが、手続きについては熟知していますので研究者の指示にしたがってサポートするような感じでしたので、これを研究者と対等の関係で、例えば知財の知識とか、資金の投資とかの知識はリサーチアドミニストレーターの方が高いというのが目指すべき姿であります。
- (外部専門家) 特任教授クラスで置いているところもあり、かなり研究のことを知っていないとできないので、そのくらいまで考えるべきではないか。それと、5年で終わるのであればキャリアパスはどうするのか。
- (文部科学省) 特任教授クラスで考えたいと思います。立ち上げの5年を念頭に置いていて、5年目にやって頂く方は3年くらい行なうので結果的には平

- 成 29 年を視野に入れて作っています。その定着状況をみながら、文部科学省としても支援をして行かなくてはならないと思っています。
- (外部専門家) 良い話だが、この事業によって研究者の研究活動に従事する時間が何%くらい上がることを目標にしていますか。
- (文部科学省) 現在、平成 15 年に比べて研究活動に従事する時間が 3 割くらい減っているので、少なくとも戻したいと考えています。
- (外部専門家) いろんな外部資金が煩雑すぎて研究に専念できないということがあるような気がするのでもっとシンプルにした上で、そしてこのような人を置けば事務官が減るような気がするが計画はあるのか。
- (文部科学省) 所掌を超えていますが、民主党の事業仕分けなどで競争的資金をもっとシンプルに改革をせよ、という指摘も頂いておりますので、その中で競争的資金については別途議論して行く予定です。
- (今栄議員) 5 年後の大学院のイメージは、専門の方を養成する課程を作るのか。
- (文部科学省) 将来的には考えています。ある程度の研究分野のバックグラウンドを持った方々に、知財とか投資の知識を学んで頂く大学院を作りたいと考えています
- (今栄議員) 大学院の方が先のような気がするが如何か。
- (文部科学省) リサーチアドミニストレーターがまだ日本で定着していないこともあり、大学によってはこの機能を持って活動して頂いている方もいますので頑張って頂きながら、平行して人材育成を考え行くようなことで予算要求しています。
- (相澤議員) 研究者の手助けが強調されているために議論が定まらない。評価がプロジェクトの獲得で評価されるのは、私は大きなミスリーディングだと思う。研究者と本当に対等になって、研究のマネージメントをできる、ということがなくて、将来のポストが定まらない。事務系の職員をこちらに振り向けるべきだと言うくらいの判断を、文部科学省として必要だと思います。それで教員との対等の立場につながるので、スキルだけではないと思います。

以上